

# 新2学年数学科③

## 7章「資料の活用」

※ 1年生の教科書内容

〇月〇日 (〇)

まず、  
日付を書きましょう。

P15問 1

(1) ~~~~~

教科書の問題は、  
ノートに書きましょう。

まとめ

最後に、  
まとめを書きましょう。

階級 . . .

◎ ワークの問題はワークに書きましょう。

## 累積度数について

身長(cm)	度数 (人)	累積度数 (人)
140以上～150未満	1	1
150～160	2	3
160～170	5	8
170～180	3	11
180～190	1	12
計	12	

左の表のように、  
最初の階級から、その階級  
までの度数の合計を

# 累積度数

という。

※ 例えば、  
140～170の階級の累積度数は

身長(cm)	度数 (人)	累積度数 (人)
140以上～150未満	1	1
150～160	2	3
160～170	5	8
170～180	3	11
180～190	1	12
計	12	

$$1 + 2 + 5 = 8$$

(140～150の度数) + (150～160の度数) + (160～170の度数) = (160～170の累積度数)

## 累積度数を求めると・・・

身長(cm)	度数 (人)	累積度数 (人)
140以上～150未満	1	1
150～160	2	3
160～170	5	8
170～180	3	11
180～190	1	12
計	12	

身長が170cm未満の人は  
8人とわかる

## 相対度数について

身長(cm)	度数(人)	相対度数
140以上～150未満	1	0.08
150～160	2	0.17
160～170	5	0.42
170～180	3	0.25
180～190	1	0.08
計	12	1.00

各階級の度数の、  
全体に対する割合を、

その階級の**相対度数**

という。

※ 相対度数の求め方

$$\text{相対度数} = \frac{\text{階級の度数}}{\text{度数の合計}}$$

下の表では、相対度数は小数第3位を四捨五入し、  
小数第2位まで求めた

身長(cm)	度数(人)	相対度数
140以上~150未満	1	0.08
150 ~160	2	0.17
160 ~170	5	0.42
170 ~180	3	0.25
180 ~190	1	0.08
計	12	1.00

例 150~160の階級

$$\frac{2}{12} = 0.16666 \dots$$

四捨五入すると

0.17

## 相対度数を求めると

身長(cm)	度数(人)	相対度数
140以上~150未満	1	0.08
150 ~160	2	0.17
160 ~170	5	0.42
170 ~180	3	0.25
180 ~190	1	0.08
計	12	1.00

身長(cm)	度数(人)	相対度数
140以上~150未満	3	0.15
150 ~160	5	0.25
160 ~170	8	0.40
170 ~180	3	0.15
180 ~190	1	0.05
計	20	1.00

全体の度数が違っているときに  
割合でくらべることができる




## 累積相対度数について

身長(cm)	度数(人)	相対度数	累積相対度数
140以上~150未満	1	0.08	0.08
150 ~160	2	0.17	0.25
160 ~170	5	0.42	0.67
170 ~180	3	0.25	0.92
180 ~190	1	0.08	1.00
計	12	1.00	

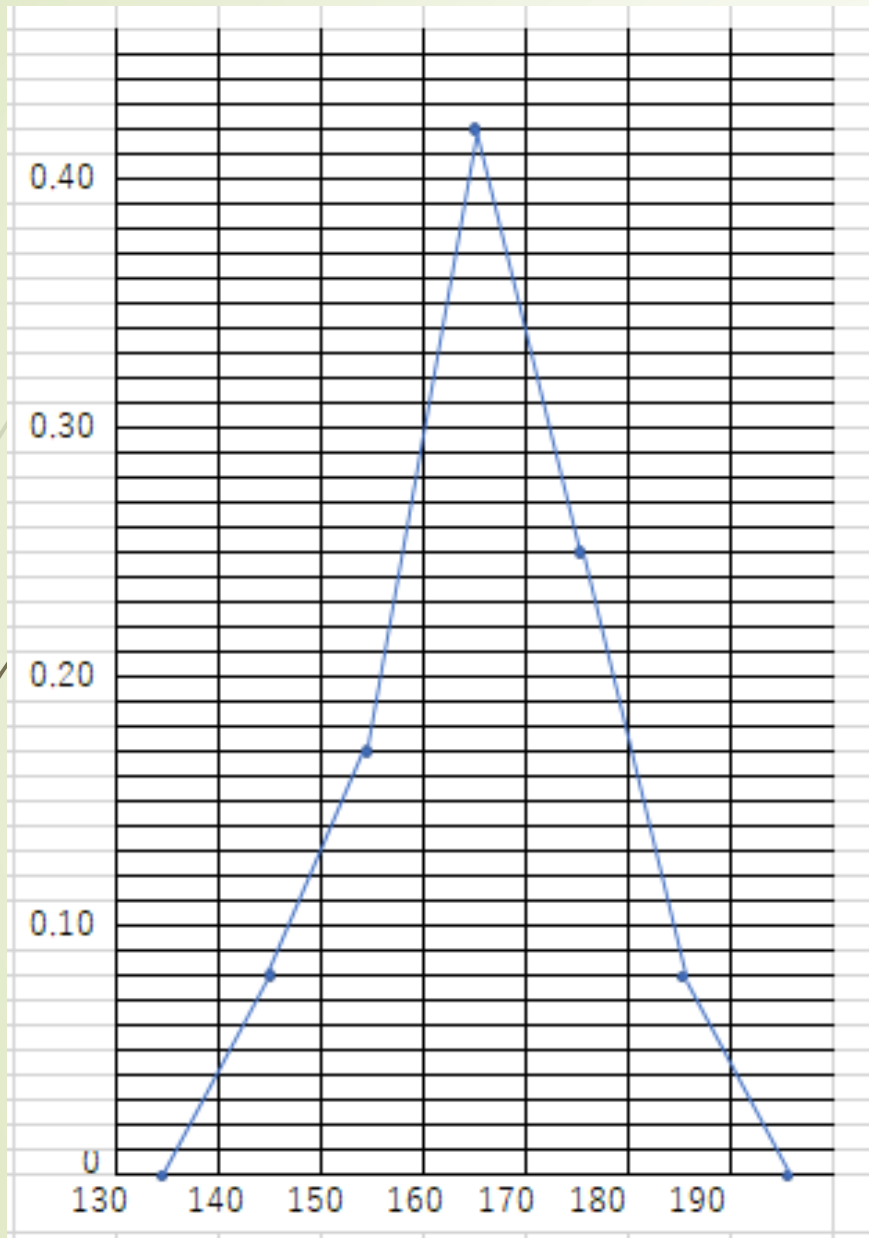
最初の階級から、その階級までの相対度数の合計を

**累積相対度数**という。



1年生に使用した  
ワークのp97の残り  
を解いて理解を深め  
よう。

# 相対度数の度数分布多角形



左のグラフのように  
縦軸を相対度数として  
度数分布多角形を  
かくことができる

## まとめ

身長(cm)	度数(人)	相対度数	累積相対度数
140以上~150未満	1	0.08	0.08
150 ~160	2	0.17	0.25
160 ~170	5	0.42	0.67
170 ~180	3	0.25	0.92
180 ~190	1	0.08	1.00
計	12	1.00	

累積度数 . . . 最初の階級から、その階級までの度数の合計

相対度数 . . . 各階級の度数の、全体に対する割合

## ここまでの復習

資料の傾向の調べ方について学習しました。

表に整理する → 度数分布表、累積度数、相対度数

グラフに表す → ヒストグラム、度数分布多角形